

JDCA第9期・第10期活動報告

前号発行以降の第9期及び第10期活動報告は以下の通りです。

● 第9期総会

日 時：2017年7月7日（金）
場 所：東京「ザインセンターエンターティメント」

JDCAジャーナルの発行、特別事業「とまり木プロデュース」「Space Design Concierge」の報告、収支報告等を行った。また、任期満了に伴う理事の改選があり、再任8名、新任2名の理事が総会において決定した。総会終了後、村田智明会員、田子學会員の「デザイン・ソサエティ」の事例紹介を行った。

● 新規入会員

第9期では4名の新入会員、1名の再入会員があつた。

- ・飯島直樹氏（飯島直樹「ザイン室」）
- ・小原淳氏（株）コンフォートメイシア／小原木材（株）
- ・柴田昌治氏（株）スコット・コノサルト
- ・中村史郎氏（株）SHIRONAKAMURA DESIGN ASSOCIATES
- ・長谷高史氏（長谷高史「ザイン事務所／愛知県立芸術大学」）

● 観察ツアー

平田智彦会員の「プロトコースで2017年9月に「ポートワイン・ザインツアー」を、10月に福井昌平会員の「プロトコースで八王子市政100周年記念事業特別観察ツアー」を行つた。

● JDCAセミナー

「米国のクリエイティブ環境」2018年1月12日

講師：平田智彦会員 ※東京「ザインセンター」共催

「JR西日本豪華列車『瑞風』のデザインについて」2018年4月10日
講師：浦一也氏、加藤三喜氏 ※東京藝大卒環境デザイン研究会
「KANNOKAI」（川上元美会員、長谷高史会員）主催

ランを視察し、小泉淳作美術館などを見学。

次に向かつたのは、国内初の自治体ワインとして1963年に誕生した十勝ワインを製造し続ける池田町ブドウ・ブドウ育種研究所。200種類を超えるブドウ育種が自慢ではあるが、ブドウ戦略の遅れもあって近年は生産も販売も低迷している。ブドウ園、地下熟成室、ワイン工場、倉庫を見学しワインとブランデーを試飲したが、特に25年以上樽で熟成させたブランデー原酒は、埋もれた宝を発見したと思わせるほどの一級品であった。



7月9日（月）

帯広駅～列車で札幌へ～椿サロント～地下空間「チ・カ・ホ」～石山緑地～札幌市立大学／札幌芸術の森～千歳空港

旧道庁舎前の長谷川演氏（日本商環境デザイン協会前理事長）経営「椿サロント」にて昼食。テーブルをちょっとがたつかせるとホットケーキがブルブルと震える仕掛けが、インスタ映えして全國的な話題になつてゐる店。そこから地下歩行空間の「チ・カ・ホ」

総会はアイヌ文化を内装に活かす北海道ホテルで

● 第10期総会

日 時：2018年7月8日（日）
場 所：森のスパリゾート北海道ホテル

隔年で東京以外で開催する総会の場所は、10期は蓮見孝会員の「ポートワイン」で北海道となつた。池田町ブドウ・ブドウ酒研究所の醸造施設見学の後、ワイン城にてJDCA会員から町が行つ「プロダクティング」戦略の立て方などのアドバイスがあつた。その後、北海道ホテルにて第10期総会を開催し、9期の活動が報告され、10期の活動計画（ホームページの英語サイト充実、中国語サイト新設、TDC木材利用研究会への参加）が承認された。

● 北海道（帯広・札幌）観察ツアー

2018年7月8日：十勝帯広、9日：札幌

北海道総会開催にあたり、前期まで札幌市立大学で理事長・学長をされていた蓮見孝会員に企画をお願いし、1泊2日の帯広・札幌観察ツアーが実現した。



7月8日（日）

帯広空港～中札内美術村／ポロシリカフェ～池田町ブドウ・ブドウ酒研究所／ワイン城～北海道ホテル

道内でも最も北海道らしい風景が広がる十勝平野を満喫するべく、まずは帯広空港から六花亭が経営する中札内美術村へ。地の食材を活かした家庭的な料理で知られるポロシリ・カフェレストラン見氏の命名。

午後は、軟石採掘跡地を利用した公園「石山緑地」に立ち寄つて、札幌市立大学キャンパスを訪問。付属図書館、学長室、140mのスカイウェイを見学するなど、大学の前身である市立高専初代校長を務めた建築家、清家清の足跡を探訪した。



札幌市立大学と学び舎を結ぶ空中廊下

2019年1月11日、建築照明デザイナー・面出薰氏をゲストにお迎えし、東京駅のライトアップを観察。その後、東京ステーションホテルにて新年会を開催した。

● 新年会

ポートランド デザイン・ツア- (平田智彦)

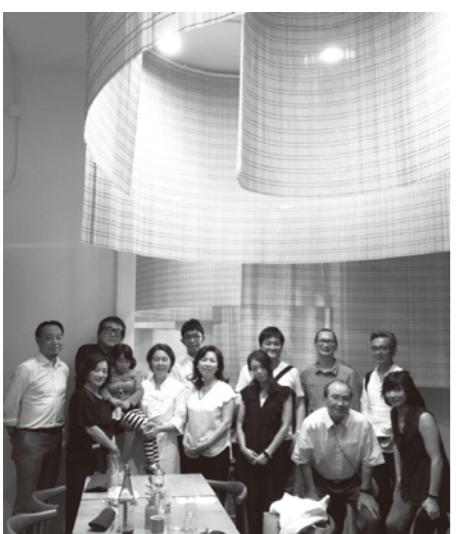
米国オレゴン州ポートランド市は、わずか人口62万人。この船橋市や鹿児島市とほぼ同じ規模の街が近年、世界的に注目されている。この米国人が一番住みたい街はどん



airbnb 北米本社のエントランス ワイデン&ケネディ本社のエントランス



日本庭園内にある隈研吾さん設計の建物



デルタ航空の機内食を提供しているレストランしづく
インテリアは隈研吾さん

airbnb 各階に個性的なキッチンがある



airbnb 居室 airbnb 居室内ロフト airbnb 居室内MTGスペース

●徒歩20分圏コミュニティーをデザインする
アメリカのような車社会でも、歩くことが楽しい通りや自転車で走りたくなる通りは人気が高い。人が自転車や徒歩で移動する街は、20分圏内の区画で考える。車を使わず徒歩や自転車、またはバスやライトレールを使って20分以内の範囲に仕事場があり、買い物ができる、レストランやバーに行ける。20分圏内で生活に必要なものが何でも揃うコミュニティがポートランド市内にはいくつも存在している環境や、座席の自由性だけでなく行動の自由性など、住みやすい環境が実現した。

●徒歩20分圏コミュニティーをデザインする

アメリカのような車社会でも、歩くことが楽しい通りや

自転車で走りたくなる通りは人気が高い。人が自転車や

徒歩で移動する街は、20分圏内の区画で考える。車を使

わざ徒歩や自転車、またはバスやライトレールを使って20

分以内の範囲に仕事場があり、買い物ができる、レストラ

ンやバーに行ける。20分圏内で生活に必要なものが何でも揃

うコミュニティがポートランド市内にはいくつも存在してい

て、それらを公共交通でつなぐことにより、コンパクトで

住みやすい環境が実現した。

積極的にそこで活動する人の創造力 자체を向上させる施策を体感し、気づきを得ました。

●リバーランドでカジュアルなパシフィック・ノースウェストの文化アーティストに寛容で毎月第1木曜日の夜は、町のいたる所でアートの祭典が開催される。またインディーズ音楽のメッカでもあり、ポートランドの居心地の良さに魅了された多くのミュージシャンが移住している。また、1960-70年代のヒッピー文化・カウンターカルチャーの影響も強く残っていて他者を排除しない気質を有する人が多い。またゲイの人たちが多く、周囲の理解もある。



街の中心を流れるウィラメット川とグリーンベルト



自転車を乗せることも可能なMAXライトレール



地元の資源を活用した木材建築

な人たちに創造されたのか、そして、どんな文化が展開されているのか……。ポートランドのパール地区に所在するziba Design inc. とポートランド市開発局の山崎満広氏の協力を得て2017年9月5日、6日に2日間のデザイン・ツア-を実施した。

●サステイナブルで小さくある」とを選んだ街

公共交通インフラが整備された都会的なダウンタウン。サステイナブルをベンチマークとした都市の中でも、LEED上位認証を米国で一番多く獲得した街。オフィスビルのインテリアには地元の木材が必ず使用されていてアーティストと地産地消を同時に実現。サードウェーブコーヒーが地元の特産であり、オーガニックな日常とフェアトレードの精神が一般市民にも浸透している。また500キロに及ぶ自転車専用レーンと公共交通の融合は、他の中堅都市とは違い車を持てない人が渋々公共交通機関を使うのではなく、自分の意思で移動を選択することが可能。



airbnbのオフィス内の
男性と女性以外のトイレ表示

八王子市市制100周年記念事業 特別視察ツアーワーク（福井昌平）

2017年の10月6～7日の1泊2日、八王子市市制100周年記念事業の特別アドバイザーを務める福井昌平副代表理事のコーディネーターで、記念事業のメインプロジェクトである「第34回全国都市緑化はちおうじフェア」の特別訪問と、グローバル・イノベーションセントラルを目指すオリンパスの技術開発センター石川の「瑞古洞」と日野自動車の21世紀センター「日野オートプラザ」を体験する「産業観光型特別エクスカーションツアーワーク」を実施した。

10月6日（金）

午後一番で、宿泊先の京王プラザホテル八王子に集合して特別エクスカーションツアーワークをスタートさせた。参加者は、船曳代表をはじめとするJDCAメンバー9名と同伴者3名の計12名。八王子に立地する多くの一流企業の事業所が、グローバル・イノベーションに変容している実態を対外的にも開かれて運営されている「産業技術館」を通して参加体験する特別ツアーワークである。

● オリンパス技術歴史館「瑞古洞」

八王子の石川工業団地に立地するオリンパス技術開発センターは、グローバルな視野でオリンパスの技術開発を推進する最先端機能を有すると同時に、オリンパスの産業技術史を一望できるユニークな技術歴史館「瑞古洞」を開設運営している。当初は、海外を含む社員教育やビジネスパートナーへの研修受け入れとしてスタートさせてき



「日野オートプラザ」正面玄関での記念撮影

10月7日（土）

自動車関連8台のうちの1台、「TEG-I A型トラック」も見学でき、最近はテーマを持つた「特別展」企画が実施されるなど、今注目の施設となっている。その後、八王子市内のみずき通り地区で交流会を開いた。

● メイン会場…富士森公園

コンセプトである「花とみどり溢れる文化的なライフスタイルの体験」は、都市公園を多様なライフスタイルの舞台として積極的に活用する（パーク・ライフスタイル）、新しい都市公園法の趣旨を積極的に追求したものである。メイン会場の富士森公園では、10にも及ぶテーマガーデンを構築しながら、そこを舞台に、「八王子フードフェスティバル」の開催や豊かな芝生環境を生かした「アウトドアスポーツ・ガーデン」や、多種多様な体験型ワークショッピングなど、積極的な参加体験事業を展開していた。

従来の全国都市緑化フェアで定番となる「庭園出展コンテスト」や「自治体出展ガーデン」に加え、八王子らしい、人同心花壇」の構築は、ポスト緑化フェアにおける市民参加レガシーの構築を十分に見据えている。

豊かな自然環境に恵まれている八王子だからこそ、都市の内部環境に優れた「コミュニティ・ガーデン」や「オーブンガーデン」のマーケットを構築していくとする八王子市の皆さんの目線が、十分に理解共感できる事業となっていることが確認できた。

● ユーロード・サテライト会場

JR八王子駅から旧甲州街道に向けて東西に伸びる2本の放射道路が、八王子の旧市中心市街地の重要な都市骨

たが、最近ではB to Bとしての戦略的商談支援や地元地域社会への社会貢献活動として大きな広がりを見せている。オリンパスの顕微鏡からスタートした技術製品がカメラなどの映像技術に拡大発展し、現在は内視鏡等の医療技術分野で世界のトップを走る姿を、体系的に理解できる仕組みとなっている。特に、最先端の医療技術である内視鏡の参加体験などが話題になり、地元八王子の小中高の校外学習でも大人気の施設となっている。



オリンパス「瑞古洞」正面玄関での記念撮影

● 日野自動車21世紀センター「日野オートプラザ」

日野自動車21世紀センターは、八王子の多摩ニュータウン地区に立地するグローバル人材育成センターと研究所を兼ね備えた施設である。ここに、日野自動車の産業技術史を含む、日本のトラックとバスの歴史が一望できる産業技術歴史館「日野オートプラザ」を開設させた。当初は、日野グループの人材育成センター機能の一部として活用されてきたが、最近はB to Bを支援する機能や地元教育界の社会科見学施設としても活用されるなど機能強化を果たしてきている。経済産業省認定「近代化産業遺跡群」の

格となっている。特に、西北に伸びる西放射線ユーロードは、歩行者専用道路となつていて、1年を通じて多くのイベント会場を演じている。今回の全国都市緑化フェアでも、市内6カ所のサテライト会場の一つとして展開された。我々訪問団は、JR八王子駅前から八日町交差点までのユーロード・サテライト会場を歩行しながら「コミュニケーション・ガーデン」「界隈緑化」「種団子による修景花壇」「花みどりcafe」を楽しんだ。